



**2021.1.1に株式会社フジキン 代表取締役から特別顧問にご就任されました小川洋史様から
過去・現在・未来につきましてその偉大な功績をお伺い致しました。
今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。**

Q：今までを振り返られまして特に印象深い事柄は何でございますか。

A：入団（社）して62年となりますが何と言っても昭和48年10月のオイルショックが特に印象にあり、倒産の危機がある位大変な出来事でした。昭和49年夏には、東大阪の中小企業が外部からの煽動で労働争議を連発しました。フジキンも例外ではなく受注減少、ストライキ、クレーム発生、正社員の雇用確保など問題山積となりました。しかし乍ら長い取引先様のお蔭様で当時35才の若輩の工場責任者でしたが何とか切り抜けることが出来ました。そこで得た教訓は「社員や企業のためにならない事は絶対妥協しない、交渉は徹夜もいとわない。これを機に会社の“生まれ変わり運動”を掲げて、厳しい会社改革を実行する」。その為に1/3位社員は去ったが、残った意欲がある社員（人財宝[®]）で改革を遂行することが出来ました。当時の年間売上高目標は昭和55年度55億円（55作戦）で、ダルマ精神（魂）の誕生や早朝ジョギング等を開始し当時は話題となりました。お蔭様によりまして現在まで48年間継続しております。今となってはすべてが愉快な思い出です。



（談笑中の小川特別顧問）

Q：貴社のご創業以来91年に亘り「技術へのこだわり」で発展されておられますが経営の理念やポリシーをお教え願います。

A：フジキンは問屋から出発した企業で、メーカーとしては後発であるため他社様がやらないもの、特殊なもの、差別化したもの、ユーザー様のニーズに応じたものに注力してきました。またユーザー様と直取引であるため、製品を予定どおり完成することを徹底することで評価を得てきました。その間他社様が手がけにくい新時代の原子力用、ロケット用、半導体用バルブも着手し、国の後押しもあって技術の高度化が図れました。

Q：コロナにより社会の変化も生じておりますがどのようにお考えでありますか。

A：これからは所謂「コロナニューノーマル」に向かうでしょう。収束までにはあと2年位はかかる可能性もありそうですが、在宅勤務など仕事のやり方もかなり変わってきていますので良い変化、悪い変化がでてきます。力のある企業は差別化などチャンスでありますので、フジキンは全社員で積み上げた「仕事学のバイブル」があり、過去の難問を乗り越えた実体験で変化に即応したいと考えます。新型コロナは日本だけの問題でなく世界が同じ苦難に遭遇しており、日本の仕組みや考え方も土台から変わるべきで生き残った企業や人財は強靱です。フジキンではこれを“人財宝[®]”と称します。その中には女性の登用も含まれます。

Q：2025年大阪・関西万博は期待しておりますがどの様に行動すれば関西や日本の起爆剤になりますでしょうか。

A：フジキンは1985年の「科学万博つくば'85」に史上初の7社共同パビリオンを出展以来、花の万博、愛知万博、上海万国博覧会、ミラノ国際博覧会に協賛出展しCSR活動にも注力してきました。

大阪・関西万博のフジキンのテーマは「水素」「空飛ぶ車」「ロボット」「遠隔医療」「ちょうざめ」「宗教と科学」の6本柱（ヘキサゴン）です。約50年毎にオリンピック・パラリンピック、万博が日本で開催されており、今回も6GやH（ヘキサゴン）難度にチャレンジすることを世界にアピールし、大阪・関西、日本の活性化につながる仕組みづくりが必要です。VECも万博関連組織に参画し、ベンチャー企業発展の為に是非行動して欲しいと考えています。

～事業承継への新たなアプローチ～

新型コロナウイルス感染症による世界中の危機は収まることなく、現在も皆様の事業や生活に大きな影響が出ていることと思います。あらためてお見舞い申し上げます。

コロナ禍となって、中小企業支援の現場ではコロナ特別融資や持続化給付金、家賃支援給付金、時短協力金、一時支援金など、激変する経営環境に対応する緊急支援の情報を事業者にお伝えすることで手一杯でした。この状況でついつい棚上げにしていた重要な経営課題が事業承継ではないかと思えます。目の前の危機の先に控える、大きな経営課題です。

中小企業経営者の高齢化が進み、世代交代が遅れ、後継者を立てられず廃業する企業が増えることにより、地域が疲弊し日本経済が衰退する懸念があります。事業承継を円滑に促進することは日本経済の活性化のため重要なテーマです。ヒト・モノ・カネ・ノウハウなどあらゆる経営資源に関わる承継は一朝一夕に進められるものではなく、今後のコロナ禍にあっても計画的に、着実に進めていく必要があります。

とはいえ、事業者の中にはそもそも子息に継がせないという決断をしている方もたくさんおられます。ご自身が味わった苦勞を我が子に負わせたくはないという親の考えです。私自身、家業であった建設業を承継せず金融機関に就職したのは親の意向によるものでした。

このような状況を打開していく事業承継に関する注目の施策があるのでご紹介いたします。ひとつはベンチャー型事業承継です。これは、若手後継者が世代交代を機に先代から受け継ぐ有形・無形の経営資源を活用しリスクや障壁に果敢に立ち向かいながら新規事業、業態転換、新市場参入など新たな領域に挑戦することで永続的な経営をめざし社会に新たな価値を生み出すことと定義され、継ぐということにイノベーションを加える注目の施策でこれを推進する様々なワークショップなどが開催されています。

もうひとつは大阪府事業承継・引継ぎ支援センターが運営する後継者バンク事業です。後継者不在の企業と、支援機関に相談をした創業希望者を引き合わせるという新たな取り組みです。中小企業にとって子息以外の方に事業を譲り渡すことが、公的支援機関の連携によりスタートしています。

こういった中小企業支援施策をしっかりと事業者にお伝えして一社でも多くの企業が事業承継を実現することが、地域経済の活性化・維持のため大切なことではないかと考えています。これからも社長の傍に寄り添って伴走支援を続けていきます。

株式会社大永コンサルティング 代表 永井俊二 （中小企業診断士・一級販売士）

「免疫力を上げる食事？」

ヒトは体の中から栄養を生み出せず、日々「外」から摂り入れねばならない。誕生から往生までいかに養生するかは「食べ物とどう上手く付き合っていくか」に尽きる。

管理栄養士・製菓衛生師・生活環境学博士として長年後進の育成に携わり「世界の家庭料理とお菓子」をライフワークとし、二人の娘の母親でもあり、食べ物・栄養にはこだわったつもりだが、経験を積む程、研究を深める程「食を語るのは難しい」としか言えなくなった。

「食」を栄養学の視点で語れば「木を見て森を見ず」になる、調理学の視点で語れば「美味で綺麗な食べ物」を優先する、食品学の視点で語れば「世界中のFoodを食べ尽くしたい」と思うし、食文化で語れば歴史や文化人類学、宗教・話が壮大になる。各人の食習慣や嗜好、経済も様々で、有病なら治療食優先となる。

免疫力を上げる食品は紙面やネットを賑わしている。腸内環境を良好に保つには、発酵食品・食物繊維・オリゴ糖・ポリフェノール等々誰でも簡単に列挙出来るが、大豆発酵食品である味噌や醤油は「減塩」に寄与しない。そもそも健康を維持するには体構成成分であるタンパク質（それもタンパク質の質=9種の必須アミノ酸をほぼ満点含む）やビタミン・ミネラルもしっかり摂取せねばならないし、1日に必要なエネルギーの50~65%は炭水化物で摂るよう厚生労働省からの指示だし、嫌われ気味なコレステロールも細胞膜やホルモンの材料となり必要最小量は摂らねばならない。

厚生労働省が提唱する「健康日本21一次（2000年~2012年）では「メタボリックシンドローム」改善に取り組んだが、その対象者が高齢期に入り、二次（2012年~）では「ロコモティブシンドローム」（運動機能低下症候群）予防として「サルコペニア（筋肉減少）・フレイル（虚弱）」に焦点を当て、寝たきり防止（莫大な医療費の削減）対策に取り組んでいる。メタボ改善には「エネルギーの制限、体重減少、生活習慣特に食生活の改善」に奮闘したが、ロコモ予防には「しっかり食べる！」ことが大切になる。学生への講義や講習会講師として語りながら「だからどないやねん??」と失笑してしまう。聴衆者も目が白黒かもしれない。

健康体があってこそその「免疫力アップ」である。理想の食事とは、摂取エネルギー量を意識しつつ、毎食バランスよく多種の食材を摂取する。質の良いタンパク質（肉、魚、卵、乳製品、大豆製品）、そしてカルシウムと鉄を常に意識する。日本は四季があり旬の食材、色とりどりの野菜果物を賞味できる恵まれた環境にある、大いに楽しまねば。

食品の5色（黄・赤・白・緑・黒）を3食で必ず摂るように意識するだけでも栄養のバランスがかなり良くなる。多種の食材を摂ることは、危険回避にもなる。

ヒトに最も理想的な栄養バランスの食品は「人乳」だが、これは赤ちゃんの特権、次に良いのは牛乳と卵、価格も安定し調理も簡単、毎日摂ることをお勧めする。納豆も素晴らしい。ヨーグルトは同じものではなく多種（の菌）を摂り、腸内フローラ（お花畑）を豊かに保つのが良い。あ！どれだけ生活習慣、食習慣改善努力をしても喫煙は全てをなし崩しにするという事を付け加えておく。

FOOD=食べ物、食料、食品、そして 糧（かて）、食べ物は正に「人生の糧」であり、筆者の拙文では語り尽くせそうになく、何だか至極当たり前の話で終わってしまった。



前 羽衣国際大学人間生活学部人間生活学科食クリエイトコース 教授
一般社団法人 国際スーパーフード・アンチエイジング学術機構 副理事長
(Academic Research International Association for Superfood and Anti-aging Science)
中井久美子

<VEC関西支部 事務局だより>



◆第7回LED関西（女性起業家応援プロジェクト）開催される！

今回も140件のエントリーがあり2021年に活躍が期待される女性起業家10名を決定。

VECもサポーターとして 第1回から参加し応援しております、皆様のご活躍振りは素晴らしいものがあります。

ファイナリストの方には今後VEC交流会等でのプレゼンも期待しております。

◆ベンチャー白書2020年版発売中です。

お申込みはVEC関西支部へ。 定価5,000円（税別）

※関西支部事務局長が交代致しました。

永年の間皆様にご支援頂きました前事務局長 澤村佳宏が2021年3月31日付で退任世代交代し、後任には長谷川治雄が4月1日付で就任致しました。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

※ <支部長> 山脇雅則
<事務局長> 長谷川治雄 <スタッフ> 藤本睦美・濱本妙子

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293
Eメール shib88@vec.or.jp